

講師

加藤 泰史(かとう・やすし)

椋山女学園大学国際コミュニケーション学部教授、
一橋大学名誉教授、日本学術会議連携会員、
日本哲学会元会長



講演テーマ

二つの戦後と「人間の尊厳」——社会統合の新たな理念としての「尊厳」

略歴

静岡大学人文学部卒業。名古屋大学大学院文学研究科博士課程修了。南山大学・一橋大学を経て2020年より現職。

専門領域及び研究テーマ

哲学、倫理学研究。近現代ドイツ哲学、特にカントおよびドイツ観念論研究を中心に、現代のハーバーマスやアーペルの討議倫理学や、応用倫理学を中心として、研究に従事。近年は、近代日本哲学、特に和辻哲郎や左右田喜一郎などについても関心を持って論じている。この間、文部科学省科学研究費補助金の基盤研究(A)・基盤研究(S)で「尊厳」の問題を総合的に研究し、2023年4月からこれらの研究成果を踏まえてさらに学術変革領域研究(A)「尊厳学の確立」の研究プロジェクトを推進している。

主な著書・論文

- ・『尊厳概念を問い直す(仮題)』(編著、法政大学出版社、近刊)
- ・『人文学・社会科学の社会的インパクト』(編著、法政大学出版社、2023年)
- ・『コロナ・トリアージ』(編著、知泉書館、2023年)
- ・『「人間の尊厳」とは』(共著、日本学術協力財団、2023年)
- ・『スピノザと近代ドイツ』(編著、岩波書店、2022年)
- ・『尊厳と生存』(編著、法政大学出版社、2022年)
- ・*Kant's Concept of Dignity*(編著、De Gruyter、2019年)
- ・「公共と尊厳」(単著、『思想』1139号、岩波書店、2019年)

以上